

開設講習名	【選択】近代数学から見る和算		講師	幡谷 泰史	
講習会場	山口大学吉田キャンパス		会場所在地	山口県山口市	
開設日	平成 29 年 12 月 2 日		時間数	6 時間	受講予定人数 20 人
受講者募集期間	平成 29 年 9 月 26 日～平成 29 年 10 月 4 日		履修認定時期	平成 30 年 1 月 15 日まで	
履修認定対象職種	教諭	主な受講対象者	中学校・高等学校数学教諭		
受講料等総額	6,000 円	(うち受講料以外の経費)			
<p>【到達目標】 江戸時代の和算書「塵劫記」の内容や、円理などの発展を知ること、数学教育が果たすべき役割を再確認する。</p>					
<p>【講習の概要】 日本は江戸時代に独特な文化を開花させ、明治時代に産業の近代化を遂げた。それらを支えた人材は、どのような数学教育を受け、どのような数学の研究をなしていたか、近代数学の立場から眺めたい。一般に一国の文化の発展および産業の発達には、人口の増加・外国からの知識の輸入・食料事情の好転・政治の安定など様々な要因があろうが、多くの市民が基礎学力を保有している（寺子屋などにおいて読み書き算盤を徹底的に叩き込まれた）ことも1つの要因である。この人材の育成という少なからぬ要因がどのようになされていたかを眺めることは、現在我々が従事する数学教育の意義を再確認する上で無駄ではなからう。</p> <p>本講義では、</p> <p>①江戸時代に庶民の間でベストセラーになった吉田光由著「塵劫記」について、背景・内容のいくつかを紹介する。当時の先端数学がいかに多くの人々に親しまれ、楽しみながら数学の素養を発展させていったか、お分かり頂けると思う。</p> <p>また、</p> <p>②関孝和や建部賢弘ら高名な和算家によって研究がなされた円周率の近似値を求める問題「円理」などについて、彼らの手法を追いかけつつ近代数学と対比を試みたい。</p> <p>本講義で、原典を読み解くこと・和算研究・和算の歴史研究などを行わない。（そもそも講師にそのような知識も力量もない。）和算の入門的知識の紹介、当時と現在とを対比することによって数学教育が果たすべき役割に思いを馳せることが目的である。よって配布されるテキストの参考文献等も二次資料ばかりであることをあらかじめお断りする。</p>					
<p>【評価の方法・評価基準】 評価の方法：筆記試験 評価基準 合格：講義内容に興味を持ち、理解し、説明できる。または講義内容に基づいて自らの業務の専門性の意義を説明できる。 不合格：上記以外。</p>					
<p>【テキスト・参考文献】 事前にテキスト(資料)を配布予定。</p>					
<p>【受講者への伝達事項】 筆記用具をご持参ください。</p>					